学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ
中京大学スポーツ

Beyond

70th CHUKYO UNIVERSITY

Vol.29
2024 12月号

硬式野球部 第73回全日本大学野球選手権 ベスト8!!

注目選手
硬式野球部
髙木快大投手
侍ジャパン
大学代表選出!

パリ2024オリンピック・パラリンピック

水泳部
インカレ女子総合2位、男子総合3位

子どもスポーツフェスタ2024

硬式野球部
半田卓也×高橋源一郎 高大監督対談

表紙:髙木快大投手・チューグル
撮影:学生広報スタッフ「ライト」松下 萌

アルーアダウィ イサ
（スポーツ科学研究科2年）※オマーン代表
出場競技:競泳男子100㍍自由形
（全体70位で予選敗退）

川端 魁人
（陸上競技部コーチ/スポーツ振興部職員）
出場競技:陸上男子1600㍍リレー（6位入賞）

藤井 萌夏
（スポーツ科学部2年）※リザーブ
出場競技:アーティスティックスイミング（5位入賞）

© 共通通信社

中京勢 パリで躍動!!

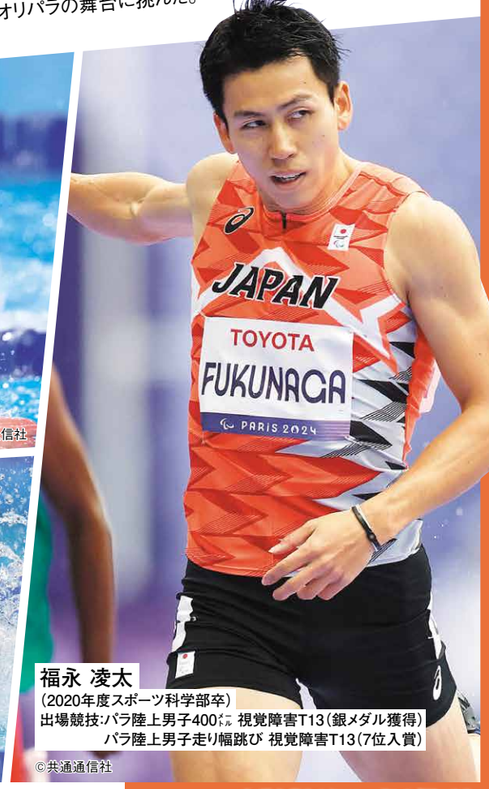
中京大学関係者から陸上競技の川端選手、パラ陸上の福永選手、競泳の谷口選手、イサ選手、村佐選手、
アーティスティックスイミングの藤井選手がパリオリパラの舞台に挑んだ。

谷口 卓
（2023年度スポーツ科学部卒）
出場競技:平泳ぎ100㍍予選（全体19位で予選敗退）
競泳男子4×100㍍メドレーリレー（全体14位で予選敗退）
競泳混合4×100㍍メドレーリレー（8位入賞）

© 共通通信社

村佐 達也
（中京大中京高校3年）
出場競技:競泳男子4×200㍍フリーリレー（7位入賞）

© 共通通信社



福永 凌太
（2020年度スポーツ科学部卒）
出場競技:パラ陸上男子400㍍ 視覚障害T13（銀メダル獲得）
パラ陸上男子走り幅跳び 視覚障害T13（7位入賞）

© 共通通信社

文・構成:学生広報スタッフ「ライト」樋口生海

競泳オマーン代表イサ選手が語る、中京大学での留学生活と五輪の経験

アルーアダウィ イサ選手

アルーアダウィ イサという名の「中京大学オリンピアン」をご存じだろうか。中東の国オマーンから2018年にスポーツ科学部競技スポーツ科学科に留学。勉強はもちろん、水泳部での活動も熱心に取り組み、21年の東京、今年のパリ両五輪に競泳男子のオマーン代表として出場したイサ選手である。現在は大学院スポーツ科学研究科修士課程に在学、来年3月に7年間の中京大学での学びを終え、母国に戻るという。イサさんに留学中の体験や将来の思いなどを聞いた。

水泳との出合いは10歳を過ぎた頃。「姉がやっていたのがきっかけ」だった。早いスタートではなかったが、「個人の努力がそのまま結果に現れる競技」に魅力を感じた。高校卒業後はアメリカで学ぶことも考えていたが、訪れたのは日本だった。

「オマーンの水泳連盟のトップの方と水泳部長の髙橋繁浩先生（スポーツ科学部教授）がお知り合いで中京大学も選択の一つに」と勧められた。実はイサさんの母親は実家が神奈川県の日本生まれ。「子どもの頃から家庭では母と日本語で会話していた」といい、言葉の心配もなかった。

「留学中に2度の五輪を体験し、学校では好きな勉強がしっかりとできて、とても楽しい7年間でした」と語るイサさん。特に豊田キャンパスに魅力を感じていたようだ。〝自分の庭〟でもあるプールのほか、アイスアリーナ、野球場、陸上競技場、大体育館、テニスコート、柔道場、剣道場など。多くの施設がそろっており、水泳以外の個人スポーツ、チームスポーツなどさまざまな競技を体験したり、観たり。「これ以上ない環境の中でスポーツの勉強に取り組めました」と振り返り、「そして今年はアスリート向けの食堂もオープンしましたね」とにっこりした。

卒業後の進路について尋ねると、「生活の基盤はオマーンに置きます。日本との関係、学びは続けるつもり」と、これからの自分の姿を見つめているかのような表情を見せた。

オマーンでは新しい生活のスタートは9月だ。卒業後の半年間は、経済関係のインターンシップに取り組み、大阪万博にも来るつもりだという。パリ五輪では陸上競技男子100㍍のオマーン代表のアリ選手と知り合った。来年9月に東京で行われる世界陸上に「間違いなく来るのでいろいろと援助したい。26年には愛知でアジア大会があり、さらにその2年後はロサンゼルス五輪ですよね」。いろんな人たちと関わることのできるスポーツの世界に魅せられているのだ。

将来はオマーン国のスポーツ界を引っ張っていくのかな？　遠く正面を見つめるような眼差しで頷いたように見えた。

応援イベントの様子

パリ五輪に出場した谷口卓選手と川端魁人選手を応援するイベントが、豊田キャンパスの学生食堂「CHUGLE CAFE」で開催された。

8月3日には競泳400㍍メドレーリレー予選に出場した谷口選手の応援イベントが開催され、水泳部員を中心に100人以上が参加した。イベントには梅村清英理事長もかけつけ、谷口選手の紹介VTR上映や水泳部・草薙健太監督による見どころ解説などが行われた。

9、11日はそれぞれ、陸上1600㍍リレーの予選と決勝の応援イベントが開催され、川端選手を応援するために陸上競技部員を始め、延べ130人が集まった。川端選手が第2走者を務めた日本代表は、予選で日本記録を更新し、決勝では予選タイムを大きく更新するアジア新記録で6位入賞を果たした。川端選手にバトンが渡ると、この日いちばんの歓声が湧きパリへエールが送られた。

文・写真・構成:学生広報スタッフ「ライト」樋口生海・江口未桜

国内大会での活躍!!

硬式野球部、42年ぶり全国ベスト8

硬式野球部は6年ぶりとなる全日本大学野球選手権に出場し、42年ぶりのベスト8入りを果たした。

4月6日から5月20日にかけて行われた愛知大学野球連盟春季リーグ戦で見事優勝を果たし、愛知大学野球連盟1位校として第73回全日本大学野球選手権大会への出場を決めた。

初戦は6月10日、明治神宮野球場で行われ、日本文理大学と対戦。6年ぶりの全国大会の舞台で選手に緊張が見られたが、4—0で見事勝利を収めた。その勢いは止まらず、6月12日に行われた2回戦では中部学院大学と対戦。熱戦の末、3—0で勝利。初戦と同様に相手を無得点に抑え、強固な守備と力強い打撃を見せた。

続く6月13日の準々決勝では青山学院大学と対戦し、激しい攻防が繰り広げられた。中盤までリードするも終盤で勝ち越しを許し、3—6で惜しくも敗れた。

大会後、大学首脳陣を訪問した半田卓也監督は、「選手たちは物怖じすることなく自分たちの力を発揮してくれました。日本一が少し見えたような気がします。ここから先もチーム一丸となって戦っていきます」と報告した。

また、主将の桑原大紀選手（スポーツ科学部4年）は、「ベスト8という結果について、良い成績ですが納得はしていません。日本一という目標に向けて、まずは秋のリーグ戦で優勝し、もう一度全国の舞台に立ち日本一になりたいです」と力強く語った。

今後もさらなる高みを目指す硬式野球部の選手たちを応援し、その活躍に注目していきたい。

注目選手 高木 快大 投手

高木快大投手（スポーツ科学部3年）は今年度の愛知大学野球春季リーグの開幕戦、名城大学との1回戦で59年ぶりとなるリーグ史上3人目の完全試合を達成。7月にはチェコ、オランダで開催された「第43回 プラハベースボールウィーク」と「第31回ハーレムベースボールウィーク」に侍ジャパン大学代表として出場し、7月18日にはチャイニーズ・タイペイとの準決勝で1安打11奪三振の完封勝利で圧倒するなど、要所で好投し、優勝した。

水泳部インカレ、110人の絆が生んだ総合力

第100回日本学生選手権水泳競技大会が9月5日から8日まで東京アクアティクスセンターで開かれ、水泳部は女子総合2位、男子総合3位という輝かしい成績を収めた。

大会では、「女子総合3連覇・男子総合3位入賞」という目標を掲げ、選手それぞれが自身の出場種目で全力を尽くした。総勢110人の部員をはじめ家族や友人、OB・OGが一丸となり会場全体を魅了した。

中京大学の名を背負って戦った2023—24シーズン男女主将と部員たちに、学生広報スタッフ「ライト」が密着した。

「水泳部インカレ」ホームページ記事はこちらから

伝説

神野ゆめ 主将（スポーツ科学部4年）

日頃から部員とのコミュニケーションを大切にし、話しやすい雰囲気作りを意識。インカレは競泳では数少ない「チームスポーツ」だと語り、同期と総合優勝するという思いを胸に挑んだ。

挑戦

塩田羽登 主将（スポーツ科学部4年）

部員各々に思いがあることを考慮し、部員主体で考えられる環境を大事にした。部員に対してルールやマナーを徹底し、人間力の形成こそ勝利への第一歩と考え、チームを率いた。

頂点

女子 4×100メートル メドレーリレー 優勝

竹葉智子選手（スポーツ科学部3年）
石渡遥選手（スポーツ科学部2年）
廣下菜月選手（スポーツ科学部4年）
神野ゆめ選手（スポーツ科学部4年）

4人で1本のメドレーリレー。「4人で戦う」ことを意識した。この種目だけは譲れないという強い気持ちで、仲間を信じて泳いだ。優勝できてうれしいと笑みがこぼれた。

戦友

個人 男子 1500メートル自由形

優勝 宮木宏悦選手（スポーツ科学部2年）
2位 山本大地選手（スポーツ科学部1年）

日頃から隣同士で泳いでいる努力型と天才型の2人。一緒に練習したからこそ、緊張感だけでなく安心感を持って本番に挑めたと語る。2人で日本一が証明できた瞬間だった。

中京大学体育会の70年

知の饗宴としてのスポーツ

体育会70年の歴史が結集

「スポーツの文化をもっと広めたい」。そんな願いは1980年代からスポーツ科学部の教員の中にあったが、当初は実現の見込みが立たず、構想の段階に留まっていた。しかし、2010年に名古屋キャンパスでの収蔵品のプレ展示を経て、2019年にスポーツミュージアムがオープンした。

スポーツミュージアムでは7月19日より、第11回企画展「中京大学体育会の70年」が開催された。この展示では、過去から現在までに活動している体育会の部活動を写真とともに紹介しており、その迫力は圧巻だ。また、各部活動の優れた成績を年表形式で振り返り、トロフィーや優勝カップの一部も展示された。中京大学体育会は創設以来、毎年必ずどこかのクラブが学生チャンピオンに輝いていることが驚きである。企画展コーナーだけでも楽しむことができるが、常設展示と合わせて観賞することで、さらに中京大学のスポーツの歴史について知ることができる内容となった。

スポーツミュージアムの常設展示には梅村学園に関わりのあるオリンピアンやパラリンピアンのパネルが並ぶ壁面ウォールや、寄贈や寄託などによって集められた貴重なスポーツ関連品の数々が展示されている。ミュージアム全体を通して、中京大学の枠を越え、当時の社会的状況やスポーツと人の関わりの変化についても学べる。

第11回企画展は11月7日に終了したが、現在は新たな企画展が始まっている。テーマは「ボール」。この企画展では、同じボールであってもスポーツによって形や重さ、特性が異なることを比較しながら学ぶことができる。また、学芸員課程を受講している学生が協力し合い制作したパリ2024五輪の展示も行っている。

スポーツミュージアムの学芸員を務める冨田先生(スポーツ科学部講師)は、「今後も発展していくスポーツミュージアム。ぜひ足を運び、スポーツの魅力を体感してみてほしい。」と話していた。

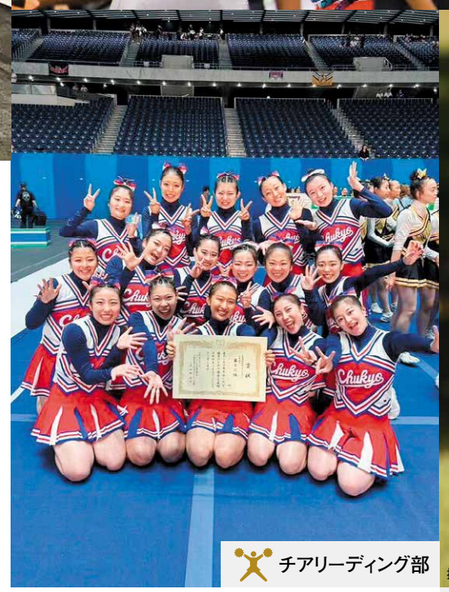
企画展について解説する冨田学芸員

陸上競技部

サッカー部

アメリカンフットボール部

スケート部


チアリーディング部

提供:日本ゴルフ協会
ゴルフ部

女子ソフトボール部
提供:UNIVAS
水泳部

CHUKYO
6 SPORTS
−Challenge & Connect−
&
体育会

中京大学の6SPORTSをはじめ、全国で優秀な成績を収めた体育会チームを紹介します。

その他のクラブの結果はこちら→
(中京スポーツHP)

陸上競技部 (6sports)
全日本学生対校選手権で
女子混成競技 優勝

サッカー部 (6sports)
天皇杯で6年ぶりに初戦突破
全日本大学選手権へ出場決定

アメリカンフットボール部 (6sports)
東海学生リーグ戦で優勝 東海代表として全日本大学選手権でベスト8

スケート部 (6sports)
西日本学生選手権大会で
鍵山優真選手が個人で大会2連覇
男女ともに総合優勝

チアリーディング部
JAPAN CAP 2024(日本選手権大会)初の決勝進出で12位

ゴルフ部
神谷桃歌選手が日本女子学生選手権で優勝 創部史上初の快挙、プロテスト合格

女子ソフトボール部
全日本大学女子選手権で準優勝
惜しくも連覇とはならず

水泳部(6sports)(アーティスティックスイミング)
日本学生選手権で藤井萌夏選手、
堀田雪菜選手がデュエット種目で優勝

繋いで きた 真剣味の バトン!!

体育会 70周年

1954年創立の中京大学体育会。各クラブ主将が漢字1文字で表した“繋げたい思い”とは?

兆 中京大の時代がここから続いていく“兆し”
男子水泳部 山口 秀哉

兆 男女ともに日本一を目指して強い中京大学を魅せます
女子水泳部 宇野 莉奈

志 強い信念と強い意志を持ってより強くなってほしい
男子陸上競技部 町田 裕輝

夢 常に「夢」を持ち続け、「夢」のあるチーム
女子陸上部 大管 紗矢香

自 自信 自由 自己実現
スケート部 山下 真瑚

挑 つねに何事にも「挑戦」し続ける
アメリカンフットボール部 松元 奏

鰯 鰯のようにチーム一丸となって日本一を目指します
硬式野球部 桑原 大紀

燦 東海地方の中心となり、ピッチ内外で輝ける存在に
男子サッカー部 押富 大輝

竜 力強く上に向かって成長し続けるチーム
男子ソフトテニス部 富安 裕次郎

刦 常に挑戦者として立ち向かっていきます。下剋上!!
女子ソフトテニス部 土井 果音

結 インカレ優勝を目指してチームで結束
男子ハンドボール部 寺田 魁杜

心 一心同体となり目標に向かって進みます!
女子ハンドボール部 大橋 なつみ

超 苦しい状況も全員で乗り超えて戦います
男子アルティメット部 小久保 颯太

成 大きく成長して今年こそ日本一に
女子アルティメット部 河柳 歩里

助 少人数でも、助け合って作業をして、大会でも記録を残していきたいです
自動車部 藤澤 都立

繋 学年やポジションを越えて繋がる
女子サッカー部 山口 あずみ

進 個人やチームの目標に向かって前進する
女子陸上ホッケー部 吉村 なつ希

気 気合があれば何でもできる!!
男子陸上ホッケー部 岩間 裕樹

変 常に高みを目指して変化し続けます
男子ラクロス部 藤江 健太郎

結 チームで団結し、最高の結果を
女子ラクロス部 山本 愛佳

恩 多くの人に感謝し、結果を恩で返します
男子卓球部 西尾 聡太

越 今までの結果を越えられるように頑張ります!
女子卓球部 小木曽 彩加

努 辛いことがあっても努力を惜しまない
女子バレーボール部 五島 楓

粘 辞めずに粘って築いたチーム
男子バレーボール部 山田 陽平

笑 どんな時でも笑顔でがんばります
女子硬式庭球部 安井 友菜

笑 良い結果で笑顔で終われるように
男子硬式庭球部 伊佐治 陽生

挑 インカレ出場を目指して常に挑戦し続ける!
女子バスケットボール部 角田 陽花

挑 挑み続け成長するチームへ
男子バスケットボール部 高村 駿佑

頂 日本一を目指して日々稽古に精進します。
剣道部 尾上 周翼

耐 耐え抜きます
準硬式野球部 大石 晃己

努力 更なる高みへ至れるよう練習に努めていきたい
アーチェリー部 谷村 宗晃

鍛 大会で勝ち上がるために心と体を鍛える!
バドミントン部 溝口 友雅

鎖 鎖のような繋がりでチーム一丸
ラグビー部 立松 大輝

誠 誠実に取り組み飛躍したシーズンを目指します!
アイスホッケー部 小林 優太

勝 あの負けを絶対忘れるな! “王座奪還”
女子ソフトボール部 川地 葵

尽 BESTを尽くして頑張ります!
男子ソフトボール部 濵田 広大

夢 一歩一歩夢に向かって進みます
自転車競技部 小森 悠音

向 競技と自分自身と向きあい成長する
フェンシング部 畑 音羽

耐 耐えるゴルフで上位を目指します!
ゴルフ部 久木 匠登

笑 子どもたちの笑顔の輪が広がるように
レクリエーション部 大野 温斗

力 最後の一瞬まで力を込めて!!
ウエイトリフティング部 名古屋 美希

飛 夢に向かって飛躍できるように
新体操部 渡邊 杏朱

欲 何事にも意欲を持って高みを目指します
体操競技部 髙橋 大地

創 人の心に残る作品を「創」る
ダンス部 高橋 海羽

和 互いに高め合い和をもって稽古に励みます
合氣道部 加藤 青生

志 強い意志を持ち、全力で挑みます!
柔道部 小池 玲二朗

挑 奇跡ではない夢の舞台に挑み続ける
チアリーディング部 新城 もも

楽 どんな時でも楽しむ気持ちを忘れない
少林寺拳法部 平沼 篤

挑 チーム内で刺激し合い、成長する
スキー競技部 松浦 透磨

進 壁に当たっても最後まで進み続ける!
空手道部 佐橋 佑星

喰 一球一球喰らいついてポイントを取ります!
スカッシュ部 佐藤 陽清

射 きれいな射を追求し安定した的中を極める
弓道部 長村 和音

中京大学 子どもスポーツフェスタ

2024年11月10日(日)

中京大学子どもスポーツフェスタが11月10日、豊田キャンパスで行われ、子ども連れの家族など約1200組、合わせて4200人がさまざまなスポーツと笑顔で触れあいました。また、体育会部活動のほか、企業や自治体などによるブースも開かれ、楽しみながら学ぶ子どもたちの姿が見られました。

このイベントが、スポーツを始めるきっかけになれば嬉しいです。大学に来て、いつもと違う景色の中で本格的にスポーツに打ち込む学生との関わりを楽しんでね!

かけっこ教室を担当したパリ五輪代表の川端魁人選手

フェンシングもサッカーも、ソフトボールもやったよ!

きょうはじめてフライングディスクにちょうせんしました。すごくたのしかっただす。またらいねんもさんかしたいだす。

きょねんにやったチアがたのしくて、ことしもさんかしました。さいごにやったわざがいちばんたのしかっただす。おねえさんたちがやさしくて、たのしかっただす。

はじめてのスケート、すべるのむずかしかったけどたのしかっただす。

初めて滑る子も経験者もいる教室でした。子どもたちが楽しそうで私たちも楽しかったです。難しい技に挑戦した達成感を味わってもらえてよかったです。

しっぽとりで せんしゅから 20ぽんもとれて、たのしかっただす!

オリンピックせんしゅにおしえてもらえてうれしかっただす。

がっこうではかったときは11ぴょうだったけど、10ぴょうだいになりました。ほんとうにはやくはしれるようになってうれしかっただす。らいねんは8ぴょうではしりたいだす!

学生コメント

子どもたちが可愛くて、一緒に陸上ができて楽しかったです。教えるのは大変でしたが、沢山話して距離を縮めることができました。

近日公開 子どもスポーツフェスタの様子はこちらから

文・写真・構成:学生広報スタッフ「ライト」松下萌、石井莉子

学生広報スタッフの活躍

学生広報スタッフ「ライト」とは?

学生広報スタッフ「ライト」は、中京大学の魅力を学内外に伝えるために活動する約90人が所属している学生ボランティア団体です。主に記事の執筆、SNSなどの運用、映像制作、オープンキャンパスや高校生向け説明会での案内役などを行っています。プロの講師による研修制度があり、実践的に学ぶことができます。

中日新聞 大相撲名古屋場所研修

7月14日からドルフィンズアリーナで開催された大相撲名古屋場所。7日目の7月20日、「ライト」の5人が取材に参加しました。
中日新聞社主催のスキルアップ研修の一環として、中日新聞記者に同行し取材を実施しました。取組を終えた力士にインタビューをし、稽古のことや今後の意気込みなどを伺いました。また、名古屋場所担当である熊ヶ谷親方には、運営方法や初心者の相撲の楽しみ方などを伺いました。
取材後に作成した記事は記者からフィードバックをいただき、今後の活動に役立つ貴重な経験となりました。

研修を終えて

木村 心音
(総合政策学部3年)

相撲の迫力を肌で感じ、取材を通じて普段見られない裏側を知ることができました。熊ヶ谷親方への取材では、会場で行われている社会貢献について学び、日本の誇るべき国技であると実感しました。

古市 七星
(総合政策学部4年)

取材研修では下調べや事前準備の大切さ、チャンスを逃さない俊敏さ、会話を楽しむ大切さなどを学ぶことができました。
今後の広報活動でこれらを実践し、一人前の広報スタッフになりたいです。

#チームに分かれて活動することも!

冊子・コラム作成チーム

広報誌やスポーツ誌「Beyond」の制作、読売新聞でのコラム掲載などを行っています。
「ライト」が企画立案から取材、執筆、写真撮影、レイアウトデザインまで行い、クリエイティブな視点で読み手に魅力的なコンテンツを提供しています。

SNS企画・運用チーム

大学公式Instagramの運営などを行っています。
「ライト」が投稿内容の企画、写真撮影、キャプション作成、投稿スケジュールの管理まで行い、他団体と交流しながら大学の魅力を発信しています。

映像制作チーム

イベントの動画撮影、Vlogの作成などを行っています。
学生スタッフが企画、撮影、編集まで行い、大学の魅力を映像で伝えています。豊富な撮影機材を用いて視覚的に訴えるコンテンツを制作しています。

制作した動画はこちら!

文・構成:学生広報スタッフ「ライト」大西星流

Aim High Chukyo

高大硬式野球部監督対談

半田監督×高橋監督

CHUKYO

野球を通じた人間形成と四大綱の伝承
~野球だけが人生ではない~両監督が抱く思い

開校100周年の昨年は決勝で敗れたが、今年7年ぶりに愛知県大会で優勝し、甲子園に出場(通算100試合を達成)した中京大中京高校、開学70周年の年に全日本大学野球選手権大会(神宮)で42年ぶりにベスト8進出を果たした中京大学。

そんなメモリアルな年が続くプレッシャーの中、結果を残し続けている中京大中京高校硬式野球部の高橋源一郎監督と中京大学硬式野球部の半田卓也監督の対談インタビューを9月25日に行った。

指導する際に心掛けていることは

半田監督「野球は失敗が多いスポーツです。結果に対してどうこう言うのではなく、そこまでのプロセスやミスした後の取り組み、ふるまいを大切にしています。野球だけでなく、日常生活においても同じですね。」

高橋監督「試合に出られなくてもチームになにが出来るかを考えられる選手を養成したいと考えています。そういったところが野球を辞めた後の人生にも活きてくると思います。」

両監督とも難しい質問だなと笑みを浮かべながらも、選手たちを第に考え、野球を通じて、野球以外の日常でも大切なことを伝えようとしている。「野球は失敗が多いスポーツ」という言葉は共通して話していたことから、野球の難しさがうかがえる。

指導者としてのお互いの印象は

半田監督「高橋監督は(私の)大学時代のコーチ。そのころから変わらず一言で終わるのではなく、きちんと言葉をかけてとにかく周りを明るくしてやる気にさせ、背中を押してくれます。」

半田卓也監督

高橋監督「非常に緻密で時代や状況の変化にアジャストしている印象があります。細部にも目が行く。(選手時代は)アグレッシブなプレー、スイングが強く本番に強い。試合になると気持ちがぐっと出ていましたね。」

選手とコーチだった関係から、お互い指導者となり印象を語り合うのは少し照れくさがありながらも指導者の立場から見たお互いの印象を赤裸々に語ってくれた。

選手が入れ替わる中で強いチームを作り続けていくために取り組んでいることは

半田監督「チーム作りの中で変えてはいけないものと変えなくてはならないものがある。変えてはいけないもの(チームの土台)は梅村学園の四大綱を大切にしていて取り組み続けています。世の中の流れに敏感になり、常にアンテナを張って変化を恐れずにチャレンジしていくことも大切にしています。」

高橋監督「同じですね(笑)。勝つことが目標かもしれないが、野球をしていくなかで建学の精神を大切にし、行動に移しながら人間形成をしていくことを選手に求め、自分自身が何をできるかを考え、チャレンジしていくことを後押ししています。」

高橋源一郎監督

対談の続きをご覧になりたい方はこちらへアクセス

文・写真:学生広報スタッフ「ライト」伊藤圭汰、上小牧空

大橋誠部長率いる日本 アメフト世界U20選手権大会で歴史的準優勝

©HUDDLE／上村弘文

アメリカンフットボール部ヘッドコーチの大橋誠スポーツ振興部長が日本代表チーム監督を務めた第1回IFAF（国際アメリカンフットボール連盟）世界U20（20歳以下）選手権大会は8か国が参加して6月にカナダ・エドモントンで開かれ、見事に日本は準優勝に輝いた。

この大会は2021年に予定されていたが、コロナ禍で延期となっていた。U20としては第1回開催だが、かつては前身大会ともいえるU19の世界ジュニア選手権大会として開かれており、日本は今回を含め6度目の出場。過去、2009、12年に3位入賞しているが、今回はそれを上回り、初の決勝進出という快挙を成し遂げた。

決勝は開催国のカナダと対戦。第1クオーターに日本がフィールドゴール（FG）で先制するなど健闘したが、9—20と逆転された。とはいえカナダは前身大会を含めこれで3連覇。日本の善戦が光る決勝戦だった。

大橋部長にはオービックシーガルズという日本を代表するチームのヘッドコーチとしてライスボウル4連覇を成し遂げるなど数々の実績があり、日本連盟から今大会の監督に選任された。代表監督として大会を振り返った大橋部長は「久しぶりの国際大会で選手たちも初めての経験の中でよくアシストしてくれた。カナダへの渡航後の成長の度合いが素晴らしく、今後に向けて有意義な大会だった」と笑顔を見せた。特に準決勝ではアメリカを41—20で破り、国際連盟主催の世界大会で初めて同国から勝利を挙げた。

また、アメフト部ヘッドコーチとして大会の振り返りと今後に目を向けた大橋部長。代表候補に入っていた中京大の選手が最終的には選抜されず、「出場選手がいなかったのはちょっと残念でした。今後は多くの人にアメフトにより興味を持っていただき、中京大チームの存在感も高めていきたいですね」と語った。28年のロサンゼルス五輪では肉弾戦のないフラッグフットボール競技が行われることが決まっており、「そちらも注目していきましょう」と呼びかけていた。

©HUDDLE／上村弘文

8歳の少年が中京大学 アメリカンフットボール部に〝入部〟

7月20日、認定NPO法人Being ALIVE Japanが企画運営するTEAMMATES事業の一環として、中京大学豊田キャンパスで中京大学アメリカンフットボール部（以下、アメフト部）の入部会見が行われた。この事業は、病気で長期療養中の子どもたちがスポーツチームに入団・入部することで、自立支援やコミュニティの創出をサポートするもの。

今回、TEAMMATES事業では、愛知県で初めての入団となり、アメフト部に高木湊人くん（8歳）が入部した。会見には部員総勢70人が参加し、温かく湊人くんを迎え入れた。

湊人くんはアメフト部との初めての交流について、「楽しそうなところが良かった」と述べ、初めてのアメリカンフットボールに胸を高鳴らせていた。アメフト部主将の松元奏選手（スポーツ科学部3年）は、「湊人くんの夢を叶えるために全力でサポートし、共に楽しみながら活動していきたい」と意気込みを語った。

湊人くんはアメフト部のメンバーとお揃いのユニフォームで練習に参加し、ボールを蹴ったり走ったりと元気にトレーニングに励んでいる。

湊人くんの挑戦が、アメフト部全体に明るいエネルギーをもたらしている。

文・写真：学生広報スタッフ「ライト」酒井梨奈

中京大中京高校 News

News

硬式野球部 7年ぶりの甲子園出場＆通算100試合目を勝利

©共同通信社

7月28日に第106回全国高等学校野球選手権愛知大会の決勝が行われ、中京大中京高校が東邦高校に7—3で勝利して優勝し、7年ぶり29回目の夏の甲子園出場を果たした。大会4日目の8月10日に行われた通算100試合目となる1回戦では、宮崎商業高校と対戦し、7回表に勝ち越しされるも、その裏に杉浦正悦選手（主将・3年）と仲健太郎選手（3年）のタイムリーヒットにより2点を取り返し、記念すべき試合を勝利で収めた。

続く大会9日目、8月15日の2回戦では、神村学園高等部（鹿児島）と対戦。3回裏に先制点、4回裏に追加点をとり、試合前半は優勢だったが、6回表に3点をとられて逆転され、9回表に追加点を与えてしまった。9回裏に1点返すことはできたが届かず、3—4で2回戦敗退となった。

仲健太郎選手 ©共同通信社

出場した選手たちは悔しさをにじませていたが、会場で声援を送った在校生や中京ファンからは温かい称賛の拍手が送られた。本誌の12ページには、今年チームを全国大会へ導いた中京大中京硬式野球部の高橋監督と、中京大学硬式野球部の半田監督の対談インタビューを掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。

中京大中京高校野球部の夏の大会結果

8月15日	8月10日	7月28日
第106回全国高等学校野球選手権2回戦（対 神村学園高等部）	第106回全国高等学校野球選手権1回戦（対 宮崎商業高校）	第106回全国高等学校野球選手権愛知大会 決勝戦（対 東邦高校）
3—4 敗退	4—3 勝利	7—3 勝利

夏の甲子園 出場決定!

News

スケート部 国際大会でメダル獲得

フィギュアスケートのジュニアグランプリシリーズ2024全7戦に、中京大中京高校の在校生4人が日本代表として出場した。この春入学した女子の島田麻央選手（1年・木下アカデミー所属）は第1戦と第5戦に出場し、2戦ともに優勝を果たした。第5戦のポーランド大会では、当時の今季世界最高合計224・68点をマークした。同じく男子の中田璃士選手（1年・TOKIOインカラミ所属）は第3戦で準優勝、最終の第7戦は華麗な4回転ジャンプで優勝を飾った。両選手は、12月5～8日にフランスのグルノーブルで行われるジュニアグランプリファイナルに出場が決まっており、本誌が発刊される頃には結果に注目が集まっているだろう。

ジュニアグランプリシリーズ2024に出場した中京大中京高校の選手の大会結果

10月9～12日	9月25～28日	9月11～14日	8月28～31日
第7戦 中国大会	第5戦 ポーランド大会	第3戦 タイ大会	第1戦 ラトビア大会
中田璃士 男子1位 岸本彩良 アイスダンス6位	島田麻央 女子1位	中田璃士（1年）男子2位 岸本彩良（2年）アイスダンス7位	島田麻央（1年）女子1位 櫛田育良（2年）女子5位

ジュニアグランプリファイナル 進出!

島田麻央選手

中田璃士選手

中京大学スポーツ 新タイトル Beyond に込めた思い

「Beyond」というタイトルには「限界を超えてベストを尽くす」という意味を込めました。
「Beyond」では、競技での活躍に留まらず、スポーツに関わるさまざまな場面でベストを尽くし、挑戦し続ける学生たちの熱意を発信していきます。「Beyond」を通じてより多くの人に中京大学とその学生たちの魅力が伝わるとうれしいです。

発案者：学生広報スタッフ「ライト」松下 萌

チューグルを探せ！

「やったぜチューグル」が
ページの中に隠れています。

チューグルを見つけてアンケートにお答えいただいた方の中から、**正解した5名様**に抽選でチューグルグッズをプレゼントします!

こちらからご回答いただけます

同じポーズの「やったぜチューグル」を見つけてね!

CHUKYOイーグル
マスコットキャラクター
「チューグル」

中京大学スポーツ振興部のSNSもチェック!

Instagram | Facebook | X | Youtube

中京大学
CHUKYO UNIVERSITY

発行／中京大学
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2
【広報課】TEL 052-835-7135
【スポーツ振興部】TEL 0565-46-6935

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C019709